

App Bridge Kicker
タスクオペレーションガイド

Ver. 1. 19. 0

目次

1. はじめに	1
1.1 本書の役割	1
1.2 前提ドキュメント	1
1.3 ログインロール	1
2. タスク定義	2
2.1 タスク定義の追加	2
2.2 タスク定義のメニュー	4
2.3 スケジュール定義	5
2.3.1 スケジューラの動作	5
2.3.2 スケジュールの追加	6
2.3.3 Daily スケジュール	7
2.3.4 Weekly1 スケジュール	9
2.3.5 Weekly2 スケジュール	11
2.3.6 Monthly1 スケジュール	13
2.3.7 Monthly2 スケジュール	15
2.3.8 Holiday スケジュール	17
2.3.9 実行時刻の入力形式	19
2.3.10 随時スケジューラの実行	20
2.4 ステップリレー定義	21
2.4.1 ステップ制御	21
2.4.2 ステップリレーの追加	22
2.5 タスク定義のコピー	23
2.6 タスクインスタンスの生成	24
2.7 タスクインスタンス生成時の妥当性チェック	25
3. ステップ定義	26
3.1 ステップの追加	26
3.2 パブリックモジュールステップ	27
3.2.1 モジュールの選択	27
3.2.2 入力画面 - Agent タイプ Windows Agent、Linux Agent	28
3.2.3 入力画面 - Agent タイプ Center Agent	29
3.2.4 設定項目	30
3.3 プライベートモジュールステップ	32
3.3.1 モジュールの選択	32
3.3.2 入力画面	33
3.3.3 設定項目	34
3.4 スクリプトステップ	35
3.4.1 入力画面	35
3.4.2 設定項目	36
3.5 ローカルファイルステップ	38
3.5.1 入力画面	38
3.5.2 設定項目	39

3.5.3 Windows Agent のローカルファイルパス	41
3.6 ステップ定義のメニュー	42
4. タスクインスタンスの操作	43
4.1 タスクインスタンスの一覧	43
4.2 タスクステータス	45
4.3 タスクインスタンスのメニュー	46
5. ステップインスタンスの操作	47
5.1 ステップインスタンスの表示	47
5.2 ステップステータス	48
5.3 ステップインスタンスのメニュー	49
6. 入力様式	50
6.1 環境変数の入力形式	50
6.2 追加する引数	51
6.3 引数の変換文字列	52
6.4 追加する環境変数	53
6.5 追加する実行ノード	54
6.6 追加する実行タグ	54
6.7 実行タグの許可文字列	55

1. はじめに

1.1 本書の役割

本書は、タスク定義、タスクインスタンス照会の Web サイト操作について、記載したものです。

1.2 前提ドキュメント

本書は、以下のドキュメントを前提に記載されています。本書をご覧いただく前にご一読下さい。

- App Bridge ファーストステップガイド
- App Bridge 管理者ガイド
- App Bridge Kicker 概説

1.3 ログインロール

App Bridge Kicker の Web サイトは、ログインユーザのロールにより、許可される操作が異なります。

(1) タスク定義

	ログインロール	
	サービス管理者 (ServiceAdmin) 以上	ユーザ (User)
タスク定義の参照	許可されます	許可されます
タスク定義の追加、更新	許可されます	許可されません
タスクインスタンスの生成	許可されます	許可されます

(2) タスクインスタンス照会

	ログインロール	
	サービス管理者 (ServiceAdmin) 以上	ユーザ (User)
タスクインスタンスの参照	許可されます	許可されます
タスクインスタンスの更新	許可されます	以下を除き許可されません ・タスク同時実行制御 ・タスク起動時のポーズ判定値
タスクインスタンスの状態変更 (※1)	許可されます	許可されます

※1: リトライ、キャンセルなど、タスクインスタンス、ステップインスタンスの状態を変更する操作です

2. タスク定義

2.1 タスク定義の追加

新しいタスク定義を追加するには、App Bridge サイトにログインいただき、＜メインメニュー/タスク定義＞をクリックします。



表示された画面で、メニュー[Add Task]をクリックします。



表示された画面に値を入力し、[Save] ボタンをクリックします。

項目	内容	備考										
タスクコード	タスクを一意に識別するためのコードです。 最大文字数は 32 文字です。許可文字種は英字、数字、_（アンダースコア）であり、先頭文字は英字のみ許可されています	英小文字は大文字に変換されます										
タスク名	タスクの名称です。 最大文字数は 40 文字です。サロゲートペア文字、制御文字は入力できません											
有効	タスクインスタンス生成を抑止したい場合、無効とします											
課金区分	タスクの課金区分を指定します <table><tr><th>設定値</th><th>内容</th></tr><tr><td>Type1</td><td>ステップ実行数をベースとした課金です</td></tr><tr><td>Type2</td><td>ステップ予約数をベースとした課金です</td></tr></table>	設定値	内容	Type1	ステップ実行数をベースとした課金です	Type2	ステップ予約数をベースとした課金です	※1				
設定値	内容											
Type1	ステップ実行数をベースとした課金です											
Type2	ステップ予約数をベースとした課金です											
タスク同時実行制御	同じタスクが同時に実行対象となった場合の制御を指定します <table><tr><th>設定値</th><th>内容</th></tr><tr><td>Parallel Exec</td><td>同時に実行させます</td></tr><tr><td>Pause</td><td>後発タスクをポーズします。ポーズ解除するまで後発タスクは実行されません</td></tr><tr><td>Cancel</td><td>後発タスクをキャンセルします</td></tr><tr><td>Retry</td><td>後発タスクを 5 分間の時限ポーズとします。時間経過とともに再度実行対象となります</td></tr></table>	設定値	内容	Parallel Exec	同時に実行させます	Pause	後発タスクをポーズします。ポーズ解除するまで後発タスクは実行されません	Cancel	後発タスクをキャンセルします	Retry	後発タスクを 5 分間の時限ポーズとします。時間経過とともに再度実行対象となります	
設定値	内容											
Parallel Exec	同時に実行させます											
Pause	後発タスクをポーズします。ポーズ解除するまで後発タスクは実行されません											
Cancel	後発タスクをキャンセルします											
Retry	後発タスクを 5 分間の時限ポーズとします。時間経過とともに再度実行対象となります											
タスク起動時のポーズ判定値（min）	タスク起動時刻とタスク起動予定時刻の差が、指定された判定値以上のとき、タスクをポーズし、実行を抑止するものです。本設定は、何らかの要因でタスク実行が遅れた場合のストッパーです。ポーズされたタスクはポーズ解除することで実行できます											
説明	タスクの説明を入力します 最大文字数は 800 文字です。サロゲートペア文字、制御文字は入力できません	任意項目です										
環境変数	タスクレベルの環境変数を指定します。タスクレベルの環境変数は、タスクインスタンス生成時に全ステップへ展開されます。入力形式は後述の「環境変数の入力形式」を参照下さい											

※1：課金の詳細は、「App Bridge Kicker 概説」を参照

2.2 タスク定義のメニュー

タスク定義の一覧からタスク定義を選択すると、タスク定義の照会画面が表示されます。タスク定義の照会画面には、タスク定義に対するメニューが表示されます。

App Bridge Kicker

タスク定義設定

Edit

Schedules

Step Relay

Copy

Create

Menu > Task List > Task

タスク定義情報

☐ タスク定義の詳細を表示する

タスクコード	TASK001
タスク名	タスクサンプル
有効	True

ステップ一覧

Add Step

Public

ステップコード	ステップ名	モジュールタイプ
STEP001	タスクへのデータインポート	Public
STEP002	タスクからのデータエクスポート	Public

メニュー	内容	備考
Edit	タスク定義を更新します	
Schedules	スケジュール定義を登録、更新します	詳細は後述を参照して下さい
Step Relay	ステップリレー定義を登録、更新します	詳細は後述を参照して下さい
Copy	タスク定義をコピーします	詳細は後述を参照して下さい
Create	タスクインスタンスを生成し、ステップを実行します	詳細は後述を参照して下さい

2.3 スケジュール定義

2.3.1 スケジューラの動作

(1) 基本動作

App Bridge Kicker のスケジューラは、タスク定義に設定されたスケジュール定義に従い、翌日実行分をスケジューリングします。スケジューラは、スケジュール定義に従い、翌日実行分のタスクインスタンスを生成します。例えば、スケジュール定義に3つの実行時刻（0900、1000、1100）が指定されていたとき、スケジューラは3つのタスクインスタンスを生成します。

(2) タスクインスタンス生成とエラー発生時の動作

スケジューラは、タスク定義とスケジュール定義に指定された「タスクインスタンス生成時の追加情報」を使ってタスクインスタンスを生成します。

スケジューラによるタスクインスタンス生成でエラーが発生した場合、App Bridge センタより、通知メッセージ（メッセージコード：9901-620-A）が生成されます。App Bridge Monitor を設定することで、任意の電子メールアドレス、電話番号にメッセージの発生を通知することができます。

発生するメッセージは「App Bridge 通知メッセージガイド」を、通知設定については「App Bridge Notification 通知サービスガイド」を参照下さい。

(3) 同一実行時刻のタスクインスタンス生成

スケジュールの結果、下記条件を全て満たすタスクインスタンスが複数生成対象となった場合、スケジューラは1つのタスクインスタンスを生成します。

- 同一タスク定義である
- タスクインスタンス生成時の追加情報が同じである
- 同一実行時刻である

同一時刻に複数のタスクインスタンスを生成したいとき、別のタスク定義を作成して下さい。

(4) 定時スケジューラ

定時スケジューラは、毎日 15:00 以降に起動され、全タスク定義のスケジューリングを実行します。

(5) 随時スケジューラ

利用者は、App Bridge サイトの App Bridge Kicker/タスク定義から、随時スケジューラを起動できます。随時スケジューラは、タスク定義単位に翌日実行分のタスクインスタンスを生成します。

随時スケジューラは、定時スケジューラ実行後の再スケジュールを目的としています。このため、随時スケジューラは、定時スケジューラ、または随時スケジューラが生成したタスクインスタンスを削除し、スケジューリングを実施します。

定時スケジューラに先駆け、随時スケジューラを起動したとき、定時スケジューラはスケジューリングを実行しません。これにより、随時スケジューラのスケジューリング結果が有効となります。

2.3.2 スケジュールの追加

タスク定義の照会画面で、メニュー[Schedules]をクリックすると、スケジュールの一覧画面が表示されます。

スケジュール定義を追加するためには、追加するスケジュールタイプを選択し、[Add Schedule]ボタンをクリックします。1つのタスク定義に登録できるスケジュール定義は15件までです。

App Bridge Kicker

タスク定義設定

Menu > Task List > Task > Schedules

タスク定義情報

タスクコード	TASK001
タスク名	タスクサンプル

スケジュール一覧

Add Schedule Daily

スケジュール名	スケジュールタイプ	有効
---------	-----------	----

選択できるスケジュールタイプは以下のとおりです。

スケジュールタイプ	内容	備考
Daily	毎日、または毎営業日にスケジュールします	
Weekly1	指定された曜日にスケジュールします	
Weekly2	指定された曜日と週にスケジュールします	
Monthly1	指定された日にスケジュールします	
Monthly2	指定された営業日にスケジュールします	
Holiday	休日にスケジュールします	

2.3.3 Daily スケジュール

表示された画面に Daily スケジュールの情報を入力します。Daily スケジュールは、毎日、または毎営業日にスケジュールします。

(1) 入力画面

App Bridge Kicker

タスク定義設定

Menu > Task List > Task > Schedules > Schedule(Edit)

Save

Cancel

タスク定義情報

タスクコード	TASK001
タスク名	タスクサンプル

スケジュール情報

スケジュール名	
スケジュールタイプ	Daily
初回スケジュール日時	2020-04-19 00:00
最終スケジュール日時	:00 ☐ 最終日時を設定する
有効	☒
休日シフトタイプ	No Shift
カレンダー	--- No Selection ---
実行時刻	hhmm, HXmm, HXM5, HXMA, HXMF, HXMH, ...
対象月	

タスクインスタンス生成時の追加情報

追加する引数	StepCD:Arguments, #ALL:Arguments, ...
追加する環境変数	StepCD:Key=Value, #ALL:Key=Value, ...
追加する実行ノード	StepCD:NodeCD, #ALL:NodeCD, ...
追加する実行タグ	StepCD:Tag, #ALL:Tag, ...

(2) 設定項目

項目	内容	備考								
スケジュール名	任意のスケジュール名を指定します									
初回スケジュール日時	指定された日時以降にスケジュールします									
最終スケジュール日時	指定された日時までスケジュールされます。指定日時でスケジュールを終了したい場合に有効です									
有効	スケジュール対象とする場合、チェックします。一時的にスケジュール対象外としたい場合に使用します									
休日シフトタイプ	<table><tr><td colspan="2">休日のスケジュール方法を指定します</td></tr><tr><td>休日シフトタイプ</td><td>内容</td></tr><tr><td>No Shift</td><td>休日にもスケジュールします。カレンダーに関係なく、毎日実行します</td></tr><tr><td>Skip</td><td>休日にはスケジュールしません。営業日のみの実行となります</td></tr></table>	休日のスケジュール方法を指定します		休日シフトタイプ	内容	No Shift	休日にもスケジュールします。カレンダーに関係なく、毎日実行します	Skip	休日にはスケジュールしません。営業日のみの実行となります	
休日のスケジュール方法を指定します										
休日シフトタイプ	内容									
No Shift	休日にもスケジュールします。カレンダーに関係なく、毎日実行します									
Skip	休日にはスケジュールしません。営業日のみの実行となります									
カレンダー	使用するカレンダーを選択します。休日シフトタイプが「No Shift」のとき設定は不要です。カレンダーは事前に登録する必要があります。カレンダーの登録は「カレンダー管理ガイド」を参照下さい									
実行時刻	実行時刻を指定します。複数の時刻を指定した場合、指定した時刻に応じたタスクインスタンスが生成されます。詳細は後述の「実行時刻の入力形式」を参照下さい									
対象月	実行対象月を指定します。複数月を指定する場合カンマで区切ります									
追加する引数	タスクインスタンス生成時に追加する引数を指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい									
引数の変換文字列	タスクインスタンス生成時の引数変換文字列を指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい									
追加する環境変数	タスクインスタンス生成時に追加する環境変数を指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい									
追加する実行ノード	タスクインスタンス生成時に追加する実行ノードを指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい									
追加する実行タグ	タスクインスタンス生成時に追加する実行タグを指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい									

2.3.4 Weekly1 スケジュール

表示された画面に Weekly1 スケジュールの情報を入力します。Weekly1 スケジュールは、毎週指定曜日にスケジュールします。

(1) 入力画面

App Bridge Kicker

タスク定義設定

Menu > Task List > Task > Schedules > Schedule(Edit)

Save

Cancel

タスク定義情報

タスクコード	TASK001
タスク名	タスクサンプル

スケジュール情報

スケジュール名	
スケジュールタイプ	Weekly1
初回スケジュール日時	2020-04-19 00:00
最終スケジュール日時	:00 ☐ 最終日時を設定する
有効	☒
曜日	☐ Sunday ☐ Monday ☐ Tuesday ☐ Wednesday ☐ Thursday ☐ Friday ☐ Saturday
休日シフトタイプ	No Shift
カレンダー	--- No Selection ---
実行時刻	hhmm, HXmm, HXM5, HXMA, HXMF, HXMH, ...
対象月	

タスクインスタンス生成時の追加情報

追加する引数	StepCD:Arguments, #ALL:Arguments, ...
追加する環境変数	StepCD:Key=Value, #ALL:Key=Value, ...
追加する実行ノード	StepCD:NodeCD, #ALL:NodeCD, ...
追加する実行タグ	StepCD:Tag, #ALL:Tag, ...

(2) 設定項目

項目	内容	備考														
スケジュール名	任意のスケジュール名を設定します															
初回スケジュール日時	指定された日時以降にスケジュールします。指定日時以降にスケジュールしたい場合に有効です															
最終スケジュール日時	指定された日時までスケジュールされます。指定日時でスケジュールを終了したい場合に有効です															
有効	スケジュール対象とする場合、チェックします。一時的にスケジュール対象外としたい場合に使用します															
曜日	実行対象とする曜日をチェックします															
休日シフトタイプ	休日のスケジュール方法を指定します <table><tr><th>休日シフトタイプ</th><th>内容</th></tr><tr><td>No Shift</td><td>休日でもスケジュールします</td></tr><tr><td>Skip</td><td>休日にはスケジュールしません</td></tr><tr><td>Back1</td><td>前営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければスケジュールしません</td></tr><tr><td>Back2</td><td>前営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければ前月にスケジュールします</td></tr><tr><td>Next1</td><td>翌営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければスケジュールしません</td></tr><tr><td>Next2</td><td>翌営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければ翌月にスケジュールします</td></tr></table>	休日シフトタイプ	内容	No Shift	休日でもスケジュールします	Skip	休日にはスケジュールしません	Back1	前営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければスケジュールしません	Back2	前営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければ前月にスケジュールします	Next1	翌営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければスケジュールしません	Next2	翌営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければ翌月にスケジュールします	
休日シフトタイプ	内容															
No Shift	休日でもスケジュールします															
Skip	休日にはスケジュールしません															
Back1	前営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければスケジュールしません															
Back2	前営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければ前月にスケジュールします															
Next1	翌営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければスケジュールしません															
Next2	翌営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければ翌月にスケジュールします															
カレンダー	使用するカレンダーを選択します。休日シフトタイプが「No Shift」のとき設定は不要です。カレンダーは事前に登録する必要があります。カレンダーの登録は「カレンダー管理ガイド」を参照下さい															
実行時刻	実行時刻を指定します。複数の時刻を指定した場合、指定した時刻に応じたタスクインスタンスが生成されます。詳細は後述の「実行時刻の入力形式」を参照下さい															
対象月	実行対象月を指定します。複数月を指定する場合カンマで区切ります															
追加する引数	タスクインスタンス生成時に追加する引数を指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい															
引数の変換文字列	タスクインスタンス生成時の引数変換文字列を指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい															
追加する環境変数	タスクインスタンス生成時に追加する環境変数を指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい															
追加する実行ノード	タスクインスタンス生成時に追加する実行ノードを指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい															
追加する実行タグ	タスクインスタンス生成時に追加する実行タグを指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい															

2.3.5 Weekly2 スケジュール

表示された画面に Weekly2 スケジュールの情報を入力します。Weekly2 スケジュールは、指定週の指定曜日にスケジュールします。

(1) 入力画面

App Bridge Kicker

タスク定義設定

Menu > Task List > Task > Schedules > Schedule(Edit)

Save

Cancel

タスク定義情報

タスクコード	TASK001
タスク名	タスクサンプル

スケジュール情報

スケジュール名	
スケジュールタイプ	Weekly2
初回スケジュール日時	2020-04-19 00:00
最終スケジュール日時	00:00 ☐ 最終日時を設定する
有効	☒
曜日	☐ Sunday ☐ Monday ☐ Tuesday ☐ Wednesday ☐ Thursday ☐ Friday ☐ Saturday
対象週	☐ 第一週 ☐ 第二週 ☐ 第三週 ☐ 第四週 ☐ 第五週
休日シフトタイプ	No Shift
カレンダー	--- No Selection ---
実行時刻	hhmm, HXmm, HXM5, HXMA, HXMF, HXMH, ...
対象月	

タスクインスタンス生成時の追加情報

追加する引数	StepCD:Arguments, #ALL:Arguments, ...
追加する環境変数	StepCD:Key:Value, #ALL:Key:Value, ...
追加する実行ノード	StepCD:NodeCD, #ALL:NodeCD, ...
追加する実行タグ	StepCD:Tag, #ALL:Tag, ...

(2) 設定項目

項目	内容	備考														
スケジュール名	任意のスケジュール名を設定します															
初回スケジュール日時	指定された日時以降にスケジュールします															
最終スケジュール日時	指定された日時までスケジュールされます。指定日時でスケジュールを終了したい場合に有効です															
有効	スケジュール対象とする場合、チェックします。一時的にスケジュール対象外としたい場合に使用します															
曜日	実行対象とする曜日をチェックします															
対象週	対象とする週をチェックします <table><tr><th>週</th><th>内容</th></tr><tr><td>第一週</td><td>1 日～7 日の指定曜日にスケジュールします</td></tr><tr><td>第二週</td><td>8 日～14 日の指定曜日にスケジュールします</td></tr><tr><td>第三週</td><td>15 日～21 日の指定曜日にスケジュールします</td></tr><tr><td>第四週</td><td>22 日～28 日の指定曜日にスケジュールします</td></tr><tr><td>第五週</td><td>29 日～31 日の指定曜日にスケジュールします</td></tr></table>	週	内容	第一週	1 日～7 日の指定曜日にスケジュールします	第二週	8 日～14 日の指定曜日にスケジュールします	第三週	15 日～21 日の指定曜日にスケジュールします	第四週	22 日～28 日の指定曜日にスケジュールします	第五週	29 日～31 日の指定曜日にスケジュールします			
週	内容															
第一週	1 日～7 日の指定曜日にスケジュールします															
第二週	8 日～14 日の指定曜日にスケジュールします															
第三週	15 日～21 日の指定曜日にスケジュールします															
第四週	22 日～28 日の指定曜日にスケジュールします															
第五週	29 日～31 日の指定曜日にスケジュールします															
休日シフトタイプ	休日のスケジュール方法を指定します <table><tr><th>休日シフトタイプ</th><th>内容</th></tr><tr><td>No Shift</td><td>休日でもスケジュールします</td></tr><tr><td>Skip</td><td>休日にはスケジュールしません</td></tr><tr><td>Back1</td><td>前営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければスケジュールしません</td></tr><tr><td>Back2</td><td>前営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければ前月にスケジュールします</td></tr><tr><td>Next1</td><td>翌営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければスケジュールしません</td></tr><tr><td>Next2</td><td>翌営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければ翌月にスケジュールします</td></tr></table>	休日シフトタイプ	内容	No Shift	休日でもスケジュールします	Skip	休日にはスケジュールしません	Back1	前営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければスケジュールしません	Back2	前営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければ前月にスケジュールします	Next1	翌営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければスケジュールしません	Next2	翌営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければ翌月にスケジュールします	
休日シフトタイプ	内容															
No Shift	休日でもスケジュールします															
Skip	休日にはスケジュールしません															
Back1	前営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければスケジュールしません															
Back2	前営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければ前月にスケジュールします															
Next1	翌営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければスケジュールしません															
Next2	翌営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければ翌月にスケジュールします															
カレンダー	使用するカレンダーを選択します。休日シフトタイプが「No Shift」のとき設定は不要です。カレンダーは事前に登録する必要があります。カレンダーの登録は「カレンダー管理ガイド」を参照下さい															
実行時刻	実行時刻を指定します。複数の時刻を指定した場合、指定した時刻に応じたタスクインスタンスが生成されます。詳細は後述の「実行時刻の入力形式」を参照下さい															
対象月	実行対象月を指定します。複数月を指定する場合カンマで区切ります															
追加する引数	タスクインスタンス生成時に追加する引数を指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい															
引数の変換文字列	タスクインスタンス生成時の引数変換文字列を指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい															
追加する環境変数	タスクインスタンス生成時に追加する環境変数を指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい															
追加する実行ノード	タスクインスタンス生成時に追加する実行ノードを指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい															
追加する実行タグ	タスクインスタンス生成時に追加する実行タグを指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい															

2.3.6 Monthly1 スケジュール

表示された画面に Monthly1 スケジュールの情報を入力します。Monthly1 スケジュールは、指定日にスケジュールします。

(1) 入力画面

App Bridge Kicker

タスク定義設定

Menu > Task List > Task > Schedules > Schedule(Edit)

Save

Cancel

タスク定義情報

タスクコード	TASK001
タスク名	タスクサンプル

スケジュール情報

スケジュール名	
スケジュールタイプ	Monthly1
初回スケジュール日時	2020-04-19 00:00
最終スケジュール日時	00:00 ☐ 最終日時を設定する
有効	☒
対象日	
休日シフトタイプ	No Shift
カレンダー	--- No Selection ---
実行時刻	hhmm, HXmm, HXM5, HXMA, HXMF, HXMH, ...
対象月	

タスクインスタンス生成時の追加情報

追加する引数	StepCD:Arguments, #ALL:Arguments, ...
追加する環境変数	StepCD:Key=Value, #ALL:Key=Value, ...
追加する実行ノード	StepCD:NodeCD, , #ALL:NodeCD, ...
追加する実行タグ	StepCD:Tag, , #ALL:Tag, ...

(2) 設定項目

項目	内容	備考																
スケジュール名	任意のスケジュール名を設定します																	
初回スケジュール日時	指定された日時以降にスケジュールします																	
最終スケジュール日時	指定された日時までスケジュールされます。指定日時でスケジュールを終了したい場合に有効です																	
有効	スケジュール対象とする場合、チェックします。一時的にスケジュール対象外としたい場合に使用します																	
対象日	実行対象とする日を指定します。複数日を指定する場合カンマで区切ります。指定可能日は 1～31、90～99 です。99 は月末日を指し、98～90 は月末日-1～月末日-9 を指します。29～31 を指定したとき、指定日が当該月に存在しない場合その指定日は無視されます																	
休日シフトタイプ	<table><tr><td colspan="2">休日のスケジュール方法を指定します</td></tr><tr><th>休日シフトタイプ</th><th>内容</th></tr><tr><td>No Shift</td><td>休日でもスケジュールします</td></tr><tr><td>Skip</td><td>休日にはスケジュールしません</td></tr><tr><td>Back1</td><td>前営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければスケジュールしません</td></tr><tr><td>Back2</td><td>前営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければ前月にスケジュールします</td></tr><tr><td>Next1</td><td>翌営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければスケジュールしません</td></tr><tr><td>Next2</td><td>翌営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければ翌月にスケジュールします</td></tr></table>	休日のスケジュール方法を指定します		休日シフトタイプ	内容	No Shift	休日でもスケジュールします	Skip	休日にはスケジュールしません	Back1	前営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければスケジュールしません	Back2	前営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければ前月にスケジュールします	Next1	翌営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければスケジュールしません	Next2	翌営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければ翌月にスケジュールします	
休日のスケジュール方法を指定します																		
休日シフトタイプ	内容																	
No Shift	休日でもスケジュールします																	
Skip	休日にはスケジュールしません																	
Back1	前営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければスケジュールしません																	
Back2	前営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければ前月にスケジュールします																	
Next1	翌営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければスケジュールしません																	
Next2	翌営業日にスケジュールします。当月内に該当日がなければ翌月にスケジュールします																	
カレンダー	使用するカレンダーを選択します。休日シフトタイプが「No Shift」のとき設定は不要です。カレンダーは事前に登録する必要があります。カレンダーの登録は「カレンダー管理ガイド」を参照下さい																	
実行時刻	実行時刻を指定します。複数の時刻を指定した場合、指定した時刻に応じたタスクインスタンスが生成されます。詳細は後述の「実行時刻の入力形式」を参照下さい																	
対象月	実行対象月を指定します。複数月を指定する場合カンマで区切ります																	
追加する引数	タスクインスタンス生成時に追加する引数を指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい																	
引数の変換文字列	タスクインスタンス生成時の引数変換文字列を指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい																	
追加する環境変数	タスクインスタンス生成時に追加する環境変数を指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい																	
追加する実行ノード	タスクインスタンス生成時に追加する実行ノードを指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい																	
追加する実行タグ	タスクインスタンス生成時に追加する実行タグを指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい																	

2.3.7 Monthly2 スケジュール

表示された画面に Monthly2 スケジュールの情報を入力します。Monthly2 スケジュールは、指定営業日にスケジュールします。

(1) 入力画面

App Bridge Kicker

タスク定義設定

Menu > Task List > Task > Schedules > Schedule(Edit)

Save

Cancel

タスク定義情報

タスクコード	TASK001
タスク名	タスクサンプル

スケジュール情報

スケジュール名	
スケジュールタイプ	Monthly2
初回スケジュール日時	2020-04-19 00 : 00
最終スケジュール日時	00 : 00 ☐ 最終日時を設定する
有効	☒
対象日	
カレンダー	--- No Selection --- v
実行時刻	 hhmm,HXmm,HXM5,HXMA,HXMF,HXMH,...
対象月	

タスクインスタンス生成時の追加情報

追加する引数	 StepCD:Arguments,#ALL:Arguments,...
追加する環境変数	 StepCD:Key=Value,#ALL:Key=Value,...
追加する実行ノード	 StepCD:NodeCD,,#ALL:NodeCD,...
追加する実行タグ	 StepCD:Tag,,#ALL:Tag,...

(2) 設定項目

項目	内容	備考
スケジュール名	任意のスケジュール名を指定します	
初回スケジュール日時	指定された日時以降にスケジュールします	
最終スケジュール日時	指定された日時までスケジュールされます。指定日時でスケジュールを終了したい場合に有効です	
有効	スケジュール対象とする場合、チェックします。一時的にスケジュール対象外としたい場合に使用します	
対象日	実行対象とする営業日を指定します。例えば、1日、2日が休日のとき、第一営業日は3日になります。複数日を指定する場合カンマで区切ります。指定可能日は1～31です。指定日が当該月に存在しない場合その指定日は無視されます	
カレンダー	使用するカレンダーを選択します。カレンダーは事前に登録する必要があります。カレンダーの登録は「カレンダー管理ガイド」を参照下さい	
実行時刻	実行時刻を指定します。複数の時刻を指定した場合、指定した時刻に応じたタスクインスタンスが生成されます。詳細は後述の「実行時刻の入力形式」を参照下さい	
対象月	実行対象月を指定します。複数の月を指定する場合カンマで区切ります	
追加する引数	タスクインスタンス生成時に追加する引数を指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい	
引数の変換文字列	タスクインスタンス生成時の引数変換文字列を指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい	
追加する環境変数	タスクインスタンス生成時に追加する環境変数を指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい	
追加する実行ノード	タスクインスタンス生成時に追加する実行ノードを指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい	
追加する実行タグ	タスクインスタンス生成時に追加する実行タグを指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい	

2.3.8 Holiday スケジュール

表示された画面に Holiday スケジュールの情報を入力します。Holiday スケジュールは、休日にスケジュールします。

(1) 入力画面

App Bridge Kicker

タスク定義設定

Menu > Task List > Task > Schedules > Schedule(Edit)

Save

Cancel

タスク定義情報

タスクコード	TASK001
タスク名	タスクサンプル

スケジュール情報

スケジュール名	
スケジュールタイプ	Holiday
初回スケジュール日時	2020-04-19 00:00
最終スケジュール日時	:00 ☐ 最終日時を設定する
有効	☒
カレンダー	--- No Selection ---
実行時刻	hhmm, HXmm, HXM5, HXMA, HXMF, HXMH, ...
対象月	

タスクインスタンス生成時の追加情報

追加する引数	StepCD:Arguments, #ALL:Arguments, ...
追加する環境変数	StepCD:Key=Value, #ALL:Key=Value, ...
追加する実行ノード	StepCD:NodeCD, #ALL:NodeCD, ...
追加する実行タグ	StepCD:Tag, #ALL:Tag, ...

(2) 設定項目

項目	内容	備考
スケジュール名	任意のスケジュール名を指定します	
初回スケジュール日時	指定された日時以降にスケジュールします	
最終スケジュール日時	指定された日時までスケジュールされます。指定日時でスケジュールを終了したい場合に有効です	
有効	スケジュール対象とする場合、チェックします。一時的にスケジュール対象外としたい場合に使用します	
カレンダー	使用するカレンダーを選択します。カレンダーは事前に登録する必要があります。カレンダーの登録は「カレンダー管理ガイド」を参照下さい	
実行時刻	実行時刻を指定します。複数の時刻を指定した場合、指定した時刻に応じたタスクインスタンスが生成されます。詳細は後述の「実行時刻の入力形式」を参照下さい	
対象月	実行対象月を指定します。複数の月を指定する場合カンマで区切ります	
追加する引数	タスクインスタンス生成時に追加する引数を指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい	
引数の変換文字列	タスクインスタンス生成時の引数変換文字列を指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい	
追加する環境変数	タスクインスタンス生成時に追加する環境変数を指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい	
追加する実行ノード	タスクインスタンス生成時に追加する実行ノードを指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい	
追加する実行タグ	タスクインスタンス生成時に追加する実行タグを指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい	

2.3.9 実行時刻の入力形式

実行時刻は、4桁（HHMM）で指定します。実行時刻を複数指定する場合、カンマで区切ります。複数の実行時刻を指定した場合、指定数に応じたタスクインスタンスが生成されます。

実行時刻の時間には 00～47 が指定できます。24 以上の値が指定された場合、翌日にスケジュールされます。

実行時刻には変数が指定できます。例えば、指定時刻に HXM5 を指定した場合、0000 から 2355 の 288 件のタスクインスタンスが生成されます。

実行時刻に重複した時間は指定できません。実行時刻に変数を使用した場合、展開後の時刻で重複チェックを実施します。例えば、HX00 と 0100 は重複するため同時に指定できません。24 以上の時間は 24 時間前の時間と同一視されます。例えば、0100 と 2500 は同一視されるため同時に指定できません。

部位	内容	タスクインスタンス生成時の変数展開
上 2 桁	時間（Hour）を示します HX、または 00～47 が指定可能です	HX：00 から 23 の 24 件に展開されます
下 2 桁	分（Minutes）を示します M5、MA、MF、MH、00、05～55（5 の倍数）が指定可能です	M5：5 分間隔の 12 件（00～55）に展開される MA：10 分間隔の 6 件（00～50）に展開される MF：15 分間隔の 4 件（00～45）に展開される MH：30 分間隔の 2 件（00、30）に展開される

2.3.10 随時スケジューラの実行

随時スケジューラを実行するには、タスク定義のスケジューラ一覧画面から、メニュー[Scheduling]を選択します。

App Bridge Kicker

タスク定義設定

Scheduling

Menu > Task List > Task > Schedules

タスク定義情報

タスクコード	TASK001
タスク名	タスクサンプル

スケジューラ一覧

Add Schedule

Daily

スケジュール名	スケジュールタイプ	有効
毎日10時に実行	Daily	True

表示された画面で、[Request]ボタンをクリックすることで、随時スケジューラが起動されます。

App Bridge Kicker

タスク定義設定

Menu > Task List > Task > Schedules > Scheduling

☐ 随時スケジューラを起動し、タスク定義をスケジューリングします

Request

Cancel

タスク定義情報

タスクコード	TASK001
タスク名	タスクサンプル
スケジュール対象日	2020-04-19

随時スケジューラは、他のスケジューラが生成したタスクインスタンスを削除し、スケジューリングを実施します

定時スケジューラに先駆け、随時スケジューラを起動したとき、定時スケジューラはスケジューリングを実行しません。これにより、随時スケジューラのスケジューリング結果が有効となります

2.4 ステップリレー定義

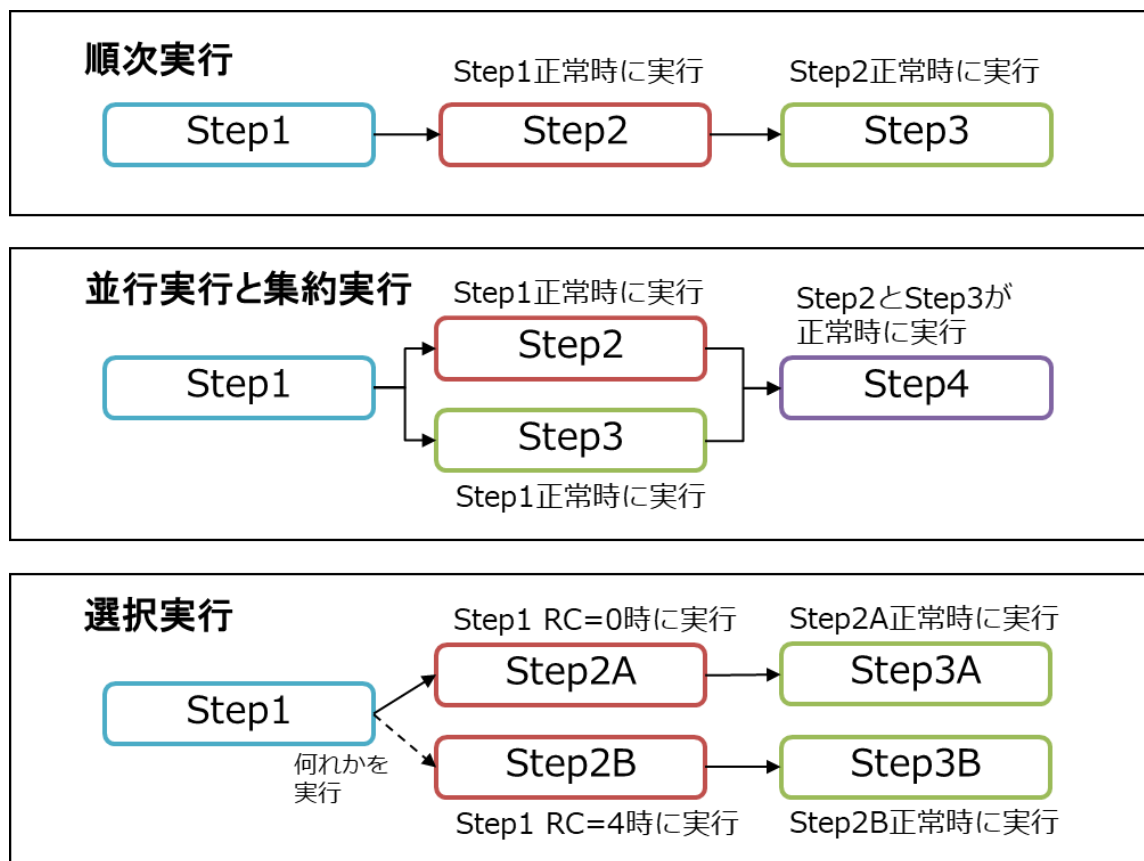
2.4.1 ステップ制御

ステップリレー定義は、ステップの先行、後続ステップを設定するものです。

先行ステップを持たないステップは、タスクインスタンスが実行対象となった時点で実行対象となります。1つのタスクインスタンスに、先行ステップを持たないステップが複数存在した場合、それらは同時に実行対象となります。

先行ステップを持つステップは、先行ステップが正常に終了した時点で実行対象となります。先行ステップのリターンコードが設定されている場合、リターンコードが該当する場合に実行対象となります。複数の先行ステップを持つステップは、全ての先行ステップが正常に終了し、先行ステップのリターンコードが該当する場合に実行対象となります。

先行ステップを持つステップで、先行ステップの何れかが異常終了する、または先行ステップのリターンコードに該当しない場合、ステップステータスがDisableとなり、実行対象外となります。



2.4.2 ステップリレーの追加

タスク定義の照会画面で、メニュー[Step Relay]をクリックすると、ステップリレーの一覧画面が表示されます。

ステップリレー定義を追加するためには、[Add Relay]ボタンをクリックします。

The screenshot shows the 'App Bridge Kicker' application interface. At the top, there's a header with the title 'App Bridge Kicker' and a 'タスク定義設定' (Task Definition Settings) link. Below the header is a breadcrumb trail: 'Menu > Task List > Task > Step Relays'. The main content area is titled 'タスク定義情報' (Task Definition Information) and contains a table with two rows: 'タスクコード' (Task Code) with value 'TASK001' and 'タスク名' (Task Name) with value 'タスクサンプル' (Task Sample). Below this is a section titled 'ステップリレー情報' (Step Relay Information) with an 'Add Relay' button. Underneath is a table with three columns: '先行ステップ' (Preceding Step), '後続ステップ' (Succeeding Step), and '先行ステップのリターンコード' (Return Code of Preceding Step). The table is currently empty.

表示された画面で、先行ステップ、後続ステップを指定します。先行ステップのリターンコードにより後続ステップの実行有無を制御する場合、後続ステップを実行するリターンコードを指定します。複数のリターンコードを指定する場合はカンマで区切ります。

The screenshot shows the 'App Bridge Kicker' application interface for editing a step relay. The header is the same as the previous screen. The breadcrumb trail is 'Menu > Task List > Task > Step Relays > Step Relay(Edit)'. The main content area is titled 'タスク定義情報' (Task Definition Information) and contains a table with two rows: 'タスクコード' (Task Code) with value 'TASK001' and 'タスク名' (Task Name) with value 'タスクサンプル' (Task Sample). Below this is a section titled 'ステップリレー情報' (Step Relay Information) with 'Save' and 'Cancel' buttons. Underneath is a table with three rows: '先行ステップ' (Preceding Step) with a dropdown menu showing '--- Select Step ---', '後続ステップ' (Succeeding Step) with a dropdown menu showing '--- Select Step ---', and '先行ステップのリターンコード' (Return Code of Preceding Step) with a text input field.

2.5 タスク定義のコピー

タスク定義の照会画面で、メニュー[Copy]をクリックすると、タスク定義のコピー画面が表示されます。タスク定義をコピーするためには、コピー先を指定し、[Copy]ボタンをクリックします。

異なるオーナーへコピーする場合、「異なるオーナーへコピーする」をチェックし、コピー先オーナーを入力して下さい。異なるオーナーへコピーする場合、スケジュール定義、実行ノード、実行タグはコピーされません。また、コピー先として指定できるオーナーは、関連するアプリケーションオーナーに限られます。アプリケーションオーナーについては、「App Bridge ファーストステップガイド」を参照下さい。

App Bridge Kicker

タスク定義設定

Menu > Task List > Task > Copy Task

Copy

Cancel

タスク定義情報

タスクコード	TASK001
タスク名	タスクサンプル

コピー先情報

コピー先オーナー	 ☐ 異なるオーナーへコピーする
新タスクコード	

2.6 タスクインスタンスの生成

タスク定義の照会画面で、メニュー[Create]をクリックすると、タスクインスタンス生成画面が表示されます。必要項目を入力し、[Create]ボタンをクリックすることで、タスクインスタンスが生成されます。[Check]ボタンをクリックすると、タスクインスタンス生成の妥当性チェックのみが実施されます。

(1) 入力画面

App Bridge Kicker

タスク定義設定

Menu > Task List > Task > Create Instance

Check

Create

Cancel

タスク定義情報

タスクコード	TASK001
タスク名	タスクサンプル

スケジュール情報

開始日時	2021-04-23	18:52:45	☒ いますぐ実行
------	------------	----------	--

タスクインスタンス生成時の追加情報

追加する引数	 StepCD:Arguments,#ALL:Arguments,...
引数の変換文字列	 StepCD:Key1=Value1,#ALL:Key2=Value2,...
追加する環境変数	 StepCD:Key=Value,#ALL:Key=Value,...
追加する実行ノード	 StepCD:NodeCD,#ALL:NodeCD,...
追加する実行タグ	 StepCD:Tag,#ALL:Tag,...

(2) 設定項目

項目	内容	備考
開始時刻	生成したタスクインスタンスの開始時刻を設定します	
追加する引数	タスクインスタンス生成時に追加する引数を指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい	
引数の変換文字列	タスクインスタンス生成時の引数変換文字列を指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい	
追加する環境変数	タスクインスタンス生成時に追加する環境変数を指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい	
追加する実行ノード	タスクインスタンス生成時に追加する実行ノードを指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい	
追加する実行タグ	タスクインスタンス生成時に追加する実行タグを指定します。詳細は後述の入力形式を参照して下さい	

2.7 タスクインスタンス生成時の妥当性チェック

タスクインスタンス生成時に以下のチェックが実施されます。エラーの場合、タスクインスタンス生成は失敗します。

- タスク定義が有効となっていない
- ステップが定義されていない
- 「追加する引数」が正しく展開できない
- 「追加する環境変数」が正しく展開できない
- 「追加するステップ抽出条件」が正しく展開できない
- Center Agent (※1) のステップにステップ抽出条件が設定されている
- オーナ Agent (※1) のステップにステップ抽出条件が設定されていない
- データダウンロードが指定されているがデータアップロードする先行ステップが存在しない
- データアップロードが指定されているがデータダウンロードする後続ステップが存在しない

※1 : センタ Agent は App Bridge センタ内のサーバを指し、オーナ Agent は利用者のタスク実行サーバを指します。詳細は別冊「App Bridge Kicker 概説」を参照下さい

3. ステップ定義

3.1 ステップの追加

ステップを追加するためには、タスク定義の画面で、モジュールタイプを選択し、[Add Step] ボタンをクリックします。1つのタスク定義に登録できるステップ定義は128ステップまでです。

App Bridge Kicker

タスク定義設定

Edit

Schedules

Step Relay

Copy

Create

Menu > Task List > Task

タスク定義情報

☐ タスク定義の詳細を表示する

タスクコード	TASK001
タスク名	タスクサンプル
有効	True

ステップ一覧

Add Step

Public

ステップコード	ステップ名	モジュールタイプ
---------	-------	----------

選択できるモジュールタイプは以下のとおりです。

モジュールタイプ	内容	備考
Public	パブリックモジュールを使用します	
Private	プライベートモジュールを使用します	
Script	ステップ定義に設定したスクリプトを実行します	
Local File	タスク実行サーバのファイルを実行します	

3.2 パブリックモジュールステップ

3.2.1 モジュールの選択

モジュールタイプで「Public」を選択して[Add Step]ボタンをクリックすると、パブリックモジュールのステップ追加が始まります。

パブリックモジュールステップの追加では、まずパブリックモジュールの選択画面が表示されます。選択画面で、実行したいモジュールのモジュールコードをクリックして下さい。

App Bridge Kicker

タスク定義設定

Menu > Task List > Task > Module List (Select)

タスク定義情報

タスクコード	TASK002
タスク名	サンプルタスク2

モジュール情報

--- All Select ---

モジュールコード	モジュール名	Agentタイプ
COT_MAIL_SEND	電子メール送信	Center Agent
COT_MAIL_SEND_ATTACHFILE	電子メール送信（添付ファイル付き）	Center Agent
CIT_SERVER_BACKUP	AWS EC2イメージバックアップ	Center Agent
CIT_SERVER_BACKUP_EC2IAMRO	AWS EC2イメージバックアップ（EC2IAMROLE）	Windows Agent
CIT_SERVER_START	AWS EC2サーバ起動	Center Agent
CIT_SERVER_START_EC2IAMROL	AWS EC2サーバ起動（EC2IAMROLE）	Windows Agent
CIT_SERVER_STOP	AWS EC2サーバ停止	Center Agent
CIT_SERVER_STOP_EC2IAMROLE	AWS EC2サーバ停止（EC2IAMROLE）	Windows Agent

パブリックモジュールを選択すると、当該モジュールの確認画面が表示されます。表示されているモジュールでステップを作成する場合は[Select]ボタン、モジュール選択画面に戻る場合は[Cancel]ボタンをクリックして下さい。モジュールコードのリンク <<Module_Info>> をクリックすると、モジュールの説明が別タブに表示されます。

App Bridge Kicker

タスク定義設定

Menu > Task List > Task > Module Info

モジュール情報

SelectCancel

モジュールコード	CWT_DATA_IMPORT <<Module_Info>>
モジュール名	タスクへのデータインポート
有効	True
モジュールカテゴリ1	DATA_TRANSPORT
モジュールカテゴリ2	FILE_OPERATION
Agentタイプ	Windows Agent
データアップロードの実行	True

3.2.2 入力画面 - Agent タイプ Windows Agent、Linux Agent

表示された画面にステップの情報を入力します。

Agent タイプが「Windows Agent」「Linux Agent」となっているモジュールは、利用者のタスク実行サーバで実行されます。タスク実行サーバを定めるための実行ノード、実行タグの設定が可能です。

App Bridge Kicker

タスク定義設定

Menu > Task List > Task > Step(Edit)

Save

Cancel

タスク定義情報

タスクコード	TASK001
タスク名	タスクサンプル

ステップ定義情報

ステップコード	STEP001
ステップ名	タスクへのデータインポート
モジュールタイプ	Public
モジュールコード	CWT_DATA_IMPORT <<Module_Info>>
Agentタイプ	Windows Agent
シャットダウン要求	None
引数	
開始遅延時間(min)	0
実行待ちタイムアウト初回 (min)	10
実行待ちタイムアウト繰返し (min)	30
実行中タイムアウト初回 (min)	10
実行中タイムアウト繰返し (min)	30
環境変数	Key:Value,Key:Value,...
実行ノード	NodeCD,NodeCD,...
実行タグ	Tag,Tag,...
タスク生成時の引数追加を抑止	☐
タスク生成時の環境変数追加を抑止	☐
タスク生成時の実行ノード追加を抑止	☐
タスク生成時の実行タグ追加を抑止	☐

3.2.3 入力画面 - Agent タイプ Center Agent

Agent タイプが「Center Agent」となっているモジュールは、App Bridge センタの Center Agent で実行されるモジュールです。アクセスキータイプが「Amazon」のパブリックモジュールには、AWS 認証情報の設定が必要です。

App Bridge Kicker

タスク定義設定

Menu > Task List > Task > Step(Edit)

Save

Cancel

タスク定義情報

タスクコード	TASK001
タスク名	タスクサンプル

ステップ定義情報

ステップコード	STEP001
ステップ名	AWS EC2サーバ起動
モジュールタイプ	Public
モジュールコード	C1T_SERVER_START <<Module_Info>>
Agent タイプ	Center Agent
アクセスキータイプ	Amazon
AWS認証ID	--- No Selection ---
引数	
開始遅延時間(min)	0
実行待ちタイムアウト初回 (min)	10
実行待ちタイムアウト繰返し (min)	30
実行中タイムアウト初回(min)	10
実行中タイムアウト繰返し (min)	30
環境変数	Key:Value,Key:Value,...
タスク生成時の引数追加を抑止	☐
タスク生成時の環境変数追加を抑止	☐

3.2.4 設定項目

項目	内容	備考										
ステップコード	タスク定義内でステップを一意に識別するためのコードです。最大文字数は 32 文字です。許可文字種は英字、数字、_（アンダースコア）であり、先頭文字は英字のみ許可されています	英小文字は大文字に変換されます										
ステップ名	ステップの名称です。最大文字数は 40 文字です。サロゲートペア文字、制御文字は入力できません											
シャットダウン要求	本ステップが正常に終了した際、Agent を停止し、OS をシャットダウンするための設定です <table><tr><th>シャットダウン要求</th><th>動作</th></tr><tr><td>None</td><td>Agent 終了処理、OS シャットダウンは実施しません</td></tr><tr><td>Shutdown</td><td>Agent 終了処理を実施し、OS にシャットダウンを要求します</td></tr><tr><td>Restart</td><td>Agent 終了処理を実施し、OS に再起動を要求します</td></tr><tr><td>Stop Agent</td><td>Agent 終了処理のみを実施します</td></tr></table>	シャットダウン要求	動作	None	Agent 終了処理、OS シャットダウンは実施しません	Shutdown	Agent 終了処理を実施し、OS にシャットダウンを要求します	Restart	Agent 終了処理を実施し、OS に再起動を要求します	Stop Agent	Agent 終了処理のみを実施します	※1
シャットダウン要求	動作											
None	Agent 終了処理、OS シャットダウンは実施しません											
Shutdown	Agent 終了処理を実施し、OS にシャットダウンを要求します											
Restart	Agent 終了処理を実施し、OS に再起動を要求します											
Stop Agent	Agent 終了処理のみを実施します											
AWS 認証 ID	モジュールが使用する AWS 認証情報を選択します。AWS 認証情報は、App Bridge サイトに登録しておく必要があります。AWS 認証 ID の登録は、「App Bridge 認証ガイド」を参照して下さい	※2										
引数	モジュールに渡す引数です。最大文字数は 1024 文字です。サロゲートペア文字、制御文字は入力できません											
開始遅延時間	指定された値に基づき、ステップ開始を遅延させます。例えば、5（分）を設定した場合、先行ステップ終了の 5 分後が本ステップの実行予定時刻になります	入力単位は「分」です										
実行待ちタイムアウト初回（min）	ステップ起動予定時刻から指定値以上の時間が経過したとき、App Bridge センタから実行待ちタイムアウトを通知します。実行待ちタイムアウトはステップステータスが Waiting For Time のステップで発生します	入力単位は「分」です										
実行待ちタイムアウト繰返し（min）	前回の実行待ちタイムアウト通知から指定値以上の時間が経過したとき、App Bridge センタからタイムアウトを通知します	入力単位は「分」です										
実行中タイムアウト初回（min）	ステップステータスが Running になってから指定値以上の時間が経過したとき、App Bridge センタから実行中タイムアウトを通知します	入力単位は「分」です										
実行中タイムアウト繰返し（min）	前回の実行中タイムアウト通知から指定値以上の時間が経過したとき、App Bridge センタからタイムアウトを通知します	入力単位は「分」です										
環境変数	実行プロセスに付与する環境変数を指定します。入力形式は後述の「環境変数の入力形式」を参照下さい											
実行ノード	実行対象とするノードを指定します。複数ノードを指定する場合カンマで区切ります。指定可能なノード最大数は 32 です	※1										
実行タグ	実行対象とするタグを指定します。複数タグを指定する場合カンマで区切ります。指定可能なタグ最大数は 32 です。実行タグの許可文字列は後述の「実行タグの許可文字列」を参照下さい	※1										
タスク生成時の引数追加を抑止	タスク生成時に指定された追加引数を当該ステップに適用したくない場合にチェックします											
タスク生成時の環境変数追加を抑止	タスク生成時に指定された追加環境変数を当該ステップに適用したくない場合にチェックします											
タスク生成時の実行ノード追加を抑止	タスク生成時に指定された追加実行ノードを当該ステップに適用したくない場合にチェックします	※1										

タスク生成時の実行 タグ追加を抑止	タスク生成時に指定された追加実行タグを当該ステップに適用 したくない場合にチェックします	※1
----------------------	---	----

※1 : Agent タイプが Center Agent のとき設定できません

※2 : Agent タイプが Center Agent で、アクセスキータイプが Amazon のとき必須です

3.3 プライベートモジュールステップ

3.3.1 モジュールの選択

モジュールタイプで「Private」を選択して[Add Step]ボタンをクリックすると、プライベートモジュールのステップ追加が始まります。

プライベートモジュールステップの追加では、まずプライベートモジュールの選択画面が表示されます。選択画面で、実行したいモジュールのモジュールコードをクリックして下さい。

App Bridge Kicker タスク定義設定

Menu > Task List > Task > Module List (Select)

タスク定義情報

タスクコード	TASK002
タスク名	サンプルタスク2

モジュール情報 --- All Select --- ▼

モジュールコード	モジュール名	Agentタイプ
MYMODULE1	モジュール1	Windows Agent

プライベートモジュールを選択すると、当該モジュールの確認画面が表示されます。表示されているモジュールでステップを作成する場合は[Select]ボタン、モジュール選択画面に戻る場合は[Cancel]ボタンをクリックして下さい。

App Bridge Kicker タスク定義設定

Menu > Task List > Task > Module Info

Select Cancel

モジュール情報

モジュールコード	MYMODULE1
モジュール名	モジュール1
有効	True
モジュールカテゴリ1	
モジュールカテゴリ2	
Agentタイプ	Windows Agent

3.3.2 入力画面

表示された画面にステップの情報を入力します。

App Bridge Kicker

タスク定義設定

Menu > Task List > Task > Step(Edit)

Save

Cancel

タスク定義情報

タスクコード	TASK001
タスク名	タスクサンプル

ステップ定義情報

ステップコード	STEP001
ステップ名	モジュール1
モジュールタイプ	Private
モジュールコード	MYMODULE1
Agentタイプ	Windows Agent
シャットダウン要求	None
引数	
開始遅延時間(min)	0
実行待ちタイムアウト初回 (min)	10
実行待ちタイムアウト繰返し (min)	30
実行中タイムアウト初回 (min)	10
実行中タイムアウト繰返し (min)	30
環境変数	Key=Value,Key=Value,...
実行ノード	NodeCD,NodeCD,...
実行タグ	Tag,Tag,...
タスク生成時の引数追加を抑止	☐
タスク生成時の環境変数追加を抑止	☐
タスク生成時の実行ノード追加を抑止	☐
タスク生成時の実行タグ追加を抑止	☐

3.3.3 設定項目

項目	内容	備考
ステップコード	タスク定義内でステップを一意に識別するためのコードです。最大文字数は 32 文字です。許可文字種は英字、数字、_（アンダースコア）であり、先頭文字は英字のみ許可されています	英小文字は大文字に変換されます
ステップ名	ステップの名称です。最大文字数は 40 文字です。サロゲートペア文字、制御文字は入力できません	
シャットダウン要求	本ステップが正常に終了した際、Agent を停止し、OS をシャットダウンするための設定です	
	シャットダウン要求	動作
	None	Agent 終了処理、OS シャットダウンは実施しません
	Shutdown	Agent 終了処理を実施し、OS にシャットダウンを要求します
	Restart	Agent 終了処理を実施し、OS に再起動を要求します
	Stop Agent	Agent 終了処理のみを実施します
引数	モジュールに渡す引数です。最大文字数は 1024 文字です。サロゲートペア文字、制御文字は入力できません	
開始遅延時間	指定された値に基づき、ステップ開始を遅延させます。例えば、5（分）を設定した場合、先行ステップ終了の 5 分後が本ステップの実行予定時刻になります	入力単位は「分」です
実行待ちタイムアウト初回（min）	ステップ起動予定時刻から指定値以上の時間が経過したとき、App Bridge センタから実行待ちタイムアウトを通知します。実行待ちタイムアウトはステップステータスが Waiting For Time のステップで発生します	入力単位は「分」です
実行待ちタイムアウト繰返し（min）	前回の実行待ちタイムアウト通知から指定値以上の時間が経過したとき、App Bridge センタからタイムアウトを通知します	入力単位は「分」です
実行中タイムアウト初回（min）	ステップステータスが Running になってから指定値以上の時間が経過したとき、App Bridge センタから実行中タイムアウトを通知します	入力単位は「分」です
実行中タイムアウト繰返し（min）	前回の実行中タイムアウト通知から指定値以上の時間が経過したとき、App Bridge センタからタイムアウトを通知します	入力単位は「分」です
環境変数	実行プロセスに付与する環境変数を指定します。入力形式は後述の「環境変数の入力形式」を参照下さい	
実行ノード	実行対象とするノードを指定します。複数ノードを指定する場合カンマで区切ります。指定可能なノード最大数は 32 です	
実行タグ	実行対象とするタグを指定します。複数タグを指定する場合カンマで区切ります。指定可能なタグ最大数は 32 です。実行タグの許可文字列は後述の「実行タグの許可文字列」を参照下さい	
タスク生成時の引数追加を抑止	タスク生成時に指定された追加引数を当該ステップに適用したくない場合にチェックします	
タスク生成時の環境変数追加を抑止	タスク生成時に指定された追加環境変数を当該ステップに適用したくない場合にチェックします	
タスク生成時の実行ノード追加を抑止	タスク生成時に指定された追加実行ノードを当該ステップに適用したくない場合にチェックします	
タスク生成時の実行タグ追加を抑止	タスク生成時に指定された追加実行タグを当該ステップに適用したくない場合にチェックします	

3.4 スクリプトステップ

3.4.1 入力画面

モジュールタイプで「Script」を選択して[Add Step]ボタンをクリックすると、スクリプトのステップ追加が始まります。表示された画面にステップの情報を入力します。

App Bridge Kicker

タスク定義設定

Menu > Task List > Task > Step(Edit)

Save

Cancel

タスク定義情報

タスクコード	TASK001
タスク名	タスクサンプル

ステップ定義情報

ステップコード	STEP001
ステップ名	Step #1
モジュールタイプ	Script
Agentタイプ	Windows Agent
スクリプトタイプ	Windows Bat File
スクリプトテキスト	Clipboard
シャットダウン要求	None
引数	
正常終了とするリターンコード	0
正常終了とする標準出力の正規表現	
異常終了とする標準出力の正規表現	
標準エラー出力を異常終了とする	☒
データダウンロードの実行	☐
データアップロードの実行	☐
開始遅延時間(min)	0
実行待ちタイムアウト初回 (min)	10
実行待ちタイムアウト繰返し (min)	30
実行中タイムアウト初回 (min)	10
実行待ちタイムアウト初回 (min)	10
実行待ちタイムアウト繰返し (min)	30
実行中タイムアウト初回 (min)	10
実行中タイムアウト繰返し (min)	30
環境変数	Key=Value,Key=Value,...
実行ノード	NodeCD,NodeCD,...
実行タグ	Tag,Tag,...
タスク生成時の引数追加を抑制	☐
タスク生成時の環境変数追加を抑制	☐
タスク生成時の実行ノード追加を抑制	☐
タスク生成時の実行タグ追加を抑制	☐

3.4.2 設定項目

項目	内容		備考												
ステップコード	タスク定義内でステップを一意に識別するためのコードです。最大文字数は 32 文字です。許可文字種は英字、数字、_（アンダースコア）であり、先頭文字は英字のみ許可されています		英小文字は大文字に変換されます												
ステップ名	ステップの名称です。最大文字数は 40 文字です。サロゲートペア文字、制御文字は入力できません														
Agent タイプ	実行する App Bridge Kicker Agent を指定します <table><tr><td>Agent タイプ</td><td>内容</td></tr><tr><td>Windows Agent</td><td>ノード登録で Windows としたサーバで稼働する</td></tr><tr><td>Linux Agent</td><td>ノード登録で Linux としたサーバで稼働する</td></tr></table>		Agent タイプ	内容	Windows Agent	ノード登録で Windows としたサーバで稼働する	Linux Agent	ノード登録で Linux としたサーバで稼働する							
Agent タイプ	内容														
Windows Agent	ノード登録で Windows としたサーバで稼働する														
Linux Agent	ノード登録で Linux としたサーバで稼働する														
スクリプトタイプ	実行するスクリプトタイプを指定します <table><tr><td>スクリプトタイプ</td><td>内容</td></tr><tr><td>Windows Bat File</td><td>バッチファイル</td></tr><tr><td>Windows Script Host(JS)</td><td>JScript</td></tr><tr><td>Windows Script Host(VB)</td><td>VBScript</td></tr><tr><td>Windows Power Shell</td><td>PowerShell</td></tr><tr><td>Linux Shell Scriptot</td><td>シェルスクリプト</td></tr></table>		スクリプトタイプ	内容	Windows Bat File	バッチファイル	Windows Script Host(JS)	JScript	Windows Script Host(VB)	VBScript	Windows Power Shell	PowerShell	Linux Shell Scriptot	シェルスクリプト	
スクリプトタイプ	内容														
Windows Bat File	バッチファイル														
Windows Script Host(JS)	JScript														
Windows Script Host(VB)	VBScript														
Windows Power Shell	PowerShell														
Linux Shell Scriptot	シェルスクリプト														
スクリプトテキスト	スクリプトタイプに従って実行するスクリプトを指定します														
シャットダウン要求	本ステップが正常に終了した際、Agent を停止し、OS をシャットダウンするための設定です <table><tr><td>シャットダウン要求</td><td>動作</td></tr><tr><td>None</td><td>Agent 終了処理、OS シャットダウンは実施しません</td></tr><tr><td>Shutdown</td><td>Agent 終了処理を実施し、OS にシャットダウンを要求します</td></tr><tr><td>Restart</td><td>Agent 終了処理を実施し、OS に再起動を要求します</td></tr><tr><td>Stop Agent</td><td>Agent 終了処理のみを実施します</td></tr></table>		シャットダウン要求	動作	None	Agent 終了処理、OS シャットダウンは実施しません	Shutdown	Agent 終了処理を実施し、OS にシャットダウンを要求します	Restart	Agent 終了処理を実施し、OS に再起動を要求します	Stop Agent	Agent 終了処理のみを実施します			
シャットダウン要求	動作														
None	Agent 終了処理、OS シャットダウンは実施しません														
Shutdown	Agent 終了処理を実施し、OS にシャットダウンを要求します														
Restart	Agent 終了処理を実施し、OS に再起動を要求します														
Stop Agent	Agent 終了処理のみを実施します														
引数	モジュールに渡す引数です。最大文字数は 1024 文字です。サロゲートペア文字、制御文字は入力できません														
正常終了とするリターンコード	正常と判定するリターンコードを設定します。複数のリターンコードを設定する場合、カンマで区切ります。指定しない場合、全てのリターンコードを正常とみなします														
正常終了とする標準出力の正規表現	指定された正規表現に該当しなかったとき異常終了とします。本項目を指定しなかったとき比較は実施されません	※1、※2、※3、※4													
異常終了とする標準出力の正規表現	指定された正規表現に該当したとき異常終了とします。本項目を指定しなかったとき比較は実施されません	※1、※2、※3、※4													
標準エラー出力を異常終了とする	標準エラー出力を検知すると、エラー扱いする場合にチェックします														
データダウンロードの実行	ステップ間データをダウンロードする場合、チェックします														
データアップロードの実行	ステップ間データをアップロードする場合、チェックします														

開始遅延時間	指定された値に基づき、ステップ開始を遅延させます。例えば、5（分）を設定した場合、先行ステップ終了の 5 分後が本ステップの実行予定時刻になります	入 力 単 位 は「分」です
実行待ちタイムアウト初回（min）	ステップ起動予定時刻から指定値以上の時間が経過したとき、App Bridge センタから実行待ちタイムアウトを通知します。実行待ちタイムアウトはステップステータスが Waiting For Time のステップで発生します	入 力 単 位 は「分」です
実行待ちタイムアウト繰返し（min）	前回の実行待ちタイムアウト通知から指定値以上の時間が経過したとき、App Bridge センタからタイムアウトを通知します	入 力 単 位 は「分」です
実行中タイムアウト初回（min）	ステップステータスが Running になってから指定値以上の時間が経過したとき、App Bridge センタから実行中タイムアウトを通知します	入 力 単 位 は「分」です
実行中タイムアウト繰返し（min）	前回の実行中タイムアウト通知から指定値以上の時間が経過したとき、App Bridge センタからタイムアウトを通知します	入 力 単 位 は「分」です
環境変数	実行プロセスに付与する環境変数を指定します。入力形式は後述の「環境変数の入力形式」を参照下さい	
実行ノード	実行対象とするノードを指定します。複数ノードを指定する場合カンマで区切ります。指定可能なノード最大数は 32 です	
実行タグ	実行対象とするタグを指定します。複数タグを指定する場合カンマで区切ります。指定可能なタグ最大数は 32 です。実行タグの許可文字列は後述の「実行タグの許可文字列」を参照下さい	
タスク生成時の引数追加を抑止	タスク生成時に指定された追加引数を当該ステップに適用したくない場合にチェックします	
タスク生成時の環境変数追加を抑止	タスク生成時に指定された追加環境変数を当該ステップに適用したくない場合にチェックします	
タスク生成時の実行ノード追加を抑止	タスク生成時に指定された追加実行ノードを当該ステップに適用したくない場合にチェックします	
タスク生成時の実行タグ追加を抑止	タスク生成時に指定された追加実行タグを当該ステップに適用したくない場合にチェックします	

※1：標準出力が 2000 文字を超える場合、先頭 1000 文字と末尾 1000 文字を結合して判定対象とします

※2：正規表現判定前に、判定対象の標準出力を次のとおり編集します

- ・改行をタブに変更します
- ・空白を除去します
- ・文頭、文末のタブを除去します

※3：正規表現判定では、英字の大文字と小文字は同一視します

※4：「正常終了とする標準出力の正規表現」と「異常終了とする標準出力の正規表現」の両方に該当したとき、異常終了と判定されます

3.5 ローカルファイルステップ

3.5.1 入力画面

モジュールタイプで「Local File」を選択して[Add Step]ボタンをクリックすると、ローカルファイルのステップ追加が始まります。表示された画面にステップの情報を入力します。

App Bridge Kicker

タスク定義設定

Menu > Task List > Task > Step(Edit)

Save

Cancel

タスク定義情報

タスクコード	TASK001
タスク名	タスクサンプル

ステップ定義情報

ステップコード	STEP001
ステップ名	Step #1
モジュールタイプ	Local File
Agentタイプ	Windows Agent
ローカルファイルパス	
シャットダウン要求	None
引数	
正常終了とするリターンコード	0
正常終了とする標準出力の正規表現	
異常終了とする標準出力の正規表現	
標準エラー出力を異常終了とする	☒
データダウンロードの実行	☐
データアップロードの実行	☐
開始遅延時間(min)	0
実行待ちタイムアウト初回 (min)	10
実行待ちタイムアウト繰返し (min)	30
実行中タイムアウト初回(min)	10
実行中タイムアウト繰返し (min)	30
環境変数	Key=Value,Key=Value,...
実行ノード	NodeCD,NodeCD,...
実行タグ	Tag,Tag,...
タスク生成時の引数追加を抑制	☐
タスク生成時の環境変数追加を抑制	☐
タスク生成時の実行ノード追加を抑制	☐
タスク生成時の実行タグ追加を抑制	☐

3.5.2 設定項目

項目	内容		備考
ステップコード	タスク定義内でステップを一意に識別するためのコードです。最大文字数は 32 文字です。許可文字種は英字、数字、_（アンダースコア）であり、先頭文字は英字のみ許可されています		英小文字は大文字に変換されます
ステップ名	ステップの名称です。最大文字数は 40 文字です。サロゲートペア文字、制御文字は入力できません		
Agent タイプ	実行する App Bridge Kicker Agent を指定します		
	Agent タイプ	内容	
	Windows Agent	ノード登録で Windows としたサーバで稼働する	
	Linux Agent	ノード登録で Linux としたサーバで稼働する	
ローカルファイルパス	実行可能ファイルのファイルパスを指定します		
	Agent タイプ	内容	
	Windows Agent	以下のいずれかで指定します ・ドライブ名から始まるフルパス ・ファイル名のみ	
	Linux Agent	以下のいずれかで指定します ・フルパス ・ファイル名のみ（実行ユーザ（*）でパスが通っている場合）	
	（*）Linux Agent の実行ユーザについては、「App Bridge Kicker Linux Agent インストールガイド」10 章を参照ください		
シャットダウン要求	本ステップが正常に終了した際、Agent を停止し、OS をシャットダウンするための設定です		
	シャットダウン要求	動作	
	None	Agent 終了処理、OS シャットダウンは実施しません	
	Shutdown	Agent 終了処理を実施し、OS にシャットダウンを要求します	
	Restart	Agent 終了処理を実施し、OS に再起動を要求します	
	Stop Agent	Agent 終了処理のみを実施します	
引数	モジュールに渡す引数です。最大文字数は 1024 文字です。サロゲートペア文字、制御文字は入力できません		
正常終了とするリターンコード	正常と判定するリターンコードを設定します。複数のリターンコードを設定する場合、カンマで区切ります。指定しない場合、全てのリターンコードを正常とみなします		
正常終了とする標準出力の正規表現	指定された正規表現に該当しなかったとき異常終了とします。本項目を指定しなかったとき比較は実施されません	※1、※2、※3、※4	
異常終了とする標準出力の正規表現	指定された正規表現に該当したとき異常終了とします。本項目を指定しなかったとき比較は実施されません	※1、※2、※3、※4	
標準エラー出力を異常終了とする	標準エラー出力を検知すると、エラー扱いする場合にチェックします		

データダウンロードの実行	ステップ間データをダウンロードする場合、チェックします	
データアップロードの実行	ステップ間データをアップロードする場合、チェックします	
開始遅延時間	指定された値に基づき、ステップ開始を遅延させます。例えば、5（分）を設定した場合、先行ステップ終了の 5 分後が本ステップの実行予定時刻になります	入 力 単 位 は「分」です
実行待ちタイムアウト初回（min）	ステップ起動予定時刻から指定値以上の時間が経過したとき、App Bridge センタから実行待ちタイムアウトを通知します。実行待ちタイムアウトはステップステータスが Waiting For Time のステップで発生します	入 力 単 位 は「分」です
実行待ちタイムアウト繰返し（min）	前回の実行待ちタイムアウト通知から指定値以上の時間が経過したとき、App Bridge センタからタイムアウトを通知します	入 力 単 位 は「分」です
実行中タイムアウト初回（min）	ステップステータスが Running になってから指定値以上の時間が経過したとき、App Bridge センタから実行中タイムアウトを通知します	入 力 単 位 は「分」です
実行中タイムアウト繰返し（min）	前回の実行中タイムアウト通知から指定値以上の時間が経過したとき、App Bridge センタからタイムアウトを通知します	入 力 単 位 は「分」です
環境変数	実行プロセスに付与する環境変数を指定します。入力形式は後述の「環境変数の入力形式」を参照下さい	
実行ノード	実行対象とするノードを指定します。複数ノードを指定する場合カンマで区切ります。指定可能なノード最大数は 32 です	
実行タグ	実行対象とするタグを指定します。複数タグを指定する場合カンマで区切ります。指定可能なタグ最大数は 32 です。実行タグの許可文字列は後述の「実行タグの許可文字列」を参照下さい	
タスク生成時の引数追加を抑止	タスク生成時に指定された追加引数を当該ステップに適用したくない場合にチェックします	
タスク生成時の環境変数追加を抑止	タスク生成時に指定された追加環境変数を当該ステップに適用したくない場合にチェックします	
タスク生成時の実行ノード追加を抑止	タスク生成時に指定された追加実行ノードを当該ステップに適用したくない場合にチェックします	
タスク生成時の実行タグ追加を抑止	タスク生成時に指定された追加実行タグを当該ステップに適用したくない場合にチェックします	

※1：標準出力が 2000 文字を超える場合、先頭 1000 文字と末尾 1000 文字を結合して判定対象とします

※2：正規表現判定前に、判定対象の標準出力を次のとおり編集します

- ・改行をタブに変更します
- ・空白を除去します
- ・文頭、文末のタブを除去します

※3：正規表現判定では、英字の大文字と小文字は同一視します

※4：「正常終了とする標準出力の正規表現」と「異常終了とする標準出力の正規表現」の両方に該当したとき、異常終了と判定されます

3.5.3 Windows Agent のローカルファイルパス

Windows Agent のモジュールタイプ「Local File/ローカルファイルパス」に指定できるのは、実行可能ファイル（拡張子 .EXE、.BAT、.COM）のみです。ファイル拡張子による Open アクションは実施されません。

ローカルファイルパスにファイル名のみを指定した場合、以下の補正が実施されます

（１）環境変数 PATH によるフォルダパス補正

「ローカルファイルパス」にフォルダパスが指定されていないとき、以下をフォルダパスとしてファイルパスを補正します。

- 環境変数 PATH の内容を；（セミicolon）で分離し、分離後文字列をフォルダパスとして補正
- App Bridge が提供する各種セットアップ（※1）の CLI フォルダをフォルダパスとして補正

（２）ファイル拡張子補正

「ローカルファイルパス」に拡張子が指定されていないとき、実行可能ファイルの拡張子（.EXE、.BAT、.COM）を拡張子としてファイルパスを補正します。

※1：Version 1.16.0 以上のセットアップのみ有効です。環境変数 PATH より、App Bridge CLI フォルダが優先されます

3.6 ステップ定義のメニュー

タスク定義照会画面でステップ定義を選択すると、ステップ定義の照会画面が表示されます。ステップ定義の照会画面には、ステップ定義に対するメニューが表示されます。

App Bridge Kicker

タスク定義設定

Edit

Step Relay

Menu > Task List > Task > Step

タスク定義情報

タスクコード	TASK001
タスク名	タスクサンプル

ステップ定義情報

ステップコード	STEP001
ステップ名	タスクへのデータインポート
モジュールタイプ	Public
モジュールコード	CWT_DATA_IMPORT <<Module_Info>>
Agent タイプ	Windows Agent
シャットダウン要求	None
引数	
開始遅延時間(min)	0
実行待ちタイムアウト初回 (min)	10
実行待ちタイムアウト繰返し (min)	30
実行中タイムアウト初回(min)	10
実行中タイムアウト繰返し (min)	30
環境変数	

メニュー	内容	備考
Edit	ステップ定義を更新します	
Step Relay	当該ステップのステップリレー定義を登録、更新します	

4. タスクインスタンスの操作

4.1 タスクインスタンスの一覧

タスクインスタンスを操作するためには、App Bridge サイトにログインいただき、＜メインメニュー/タスクインスタンス照会＞をクリックします。



タスクの一覧が表示されます。初期の検索条件は「Status[All]/Past:8h/Future:2h」（全ステータス & 過去 8 時間 & 予定 2 時間）です。検索条件を変更する場合、メニューの[Search Condition]をクリックします。



表示された画面で検索条件を指定します。指定した検索条件は、ログアウトするまで有効です。最大表示件数は 100 です。

App Bridge Kicker

タスクインスタンス照会

Menu > Task Inst List > Search Condition

OK Cancel

検索条件

タスクコード	 ☐ 前方一致で検索する
ステータス	☒ Waiting ☒ Running ☒ Complete ☒ Abort ☒ Cancel

ステータス更新日時

過去8時間、予定2時間を表示	☒
検索開始日時	2020-04-20 15:57:07 ☐ 検索開始日時を指定
検索終了日時	2020-04-20 15:57:07 ☐ 検索終了日時を指定

項目	内容	備考
タスクコード	抽出対象のタスクコードを指定します。「前方一致で検索する」をチェックした場合、前方一致検索となります	
ステータス	抽出対象とするステータスをチェックします	
過去 8 時間、予定 2 時間 を表示	ステータス更新時刻（※1）が過去 8 時間、予定 2 時間以内にあるタスクインスタンスを表示します	「検索開始日時」「検索終了日時」と同時に指定できません
検索開始日時	抽出対象ステータス更新日時の開始日時を指定します	「直近 8 時間を表示」と同時に指定できません
検索終了日時	抽出対象ステータス更新日時の終了日時を指定します	

4.2 タスクステータス

タスクインスタンスの実行状態は、タスクステータスとして管理されます。タスクステータスは以下のとおりです。

タスクインスタンス	内容	備考
Waiting	全てのステップインスタンスが実行待ちとなっている状態です	
Running	1 つ以上のステップインスタンスが実行中となっている状態です	
Complete	実行すべきステップインスタンスが全て正常に終了した状態です	
Abort	実行すべきステップインスタンスが全て終了し、1 つ以上の異常終了を検知した状態です	
Cancel	実行すべきステップインスタンスが全て終了し、1 つ以上のキャンセル終了を検知した状態です	異常終了よりキャンセル終了が優先します

4.3 タスクインスタンスのメニュー

タスクインスタンス一覧で、タスクコードをクリックすると、タスクインスタンス照会画面が表示されます。タスクインスタンスの照会画面では、当該タスクインスタンスに対するメニューが表示されます。

App Bridge Kicker

タスクインスタンス照会

Change Schedule

Change Property

Task Pause

Task Cancel

Menu > Task Inst List > Task Inst

タスクインスタンス情報

☐ タスクインスタンスの詳細を表示する

タスクコード	TASK001
タスク名	タスクサンプル
起動予定日時	2020-04-20 16:03:49
ステータス	Waiting

ステップインスタンス情報

Refresh

ステップコード	ステップ名	ステータス	起動予定日時	ステータス更新日時
STEP001	タスクへのデータ入力	Waiting For Time	2020-04-20 16:03:49	2020-04-20 16:03:49
STEP002	タスクからのデータ取り出し	Waiting For Step		2020-04-20 16:03:49

メニュー	内容	タスクステータス				
		W	R	Co	A	Ca
Change Schedule	起動予定日時を変更します。起動予定日時を変更すると、ステップステータス Waiting For Time のステップも更新されます	○	×	×	×	×
Change Property	タスクインスタンスのプロパティを変更します	○	×	×	×	×
Task Pause	タスクをポーズします。ステップステータス Waiting For Time、Waiting For Step のステップも更新されます。タスクステータスが Running のとき、既に開始されているステップは中断されません。実行中ステップが終了した時点でタスクが一時停止します	△	△	×	×	×
Task Resume	タスクのポーズを解除します	□	□	×	×	×
Task Cancel	タスクをキャンセルします。タスクのキャンセルは App Bridge センタで非同期に実施されます。タスクのキャンセルが完了するまでは、タスクキャンセルの取り消しが可能です	▲	×	×	×	×
Undo Cancel	タスクのキャンセルを取り消します。キャンセルを取り消されたタスクは、タスクポーズされた状態となります。当該タスクを実行するにはタスクのポーズ解除を実施して下さい	■	×	×	×	×

凡例 [W:Waiting] [R:Running] [Co:Complete] [A:Abort] [Ca:Cancel]
 [○:有効][×:無効]
 [△:ポーズ中は無効][□:ポーズ中は有効]
 [▲:キャンセル要求中は無効][■:キャンセル要求中は有効]

5. ステップインスタンスの操作

5.1 ステップインスタンスの表示

タスクインスタンスの照会画面でステップコードをクリックすると、ステップインスタンスの照会画面が表示されます。ステップインスタンスの照会画面では、現在のステップステータス、実行ログを確認することができます。

App Bridge Kicker

タスクインスタンス照会

Standard Message

Run Histories

Menu > Task Inst List > Task Inst > Step Inst

タスクインスタンス情報

タスクコード	PS1
タスク名	Power Shell

ステップインスタンス情報

☐ ステップインスタンスの詳細を表示する

ステップコード	STEP1
ステップ名	PS1 ステップ
起動予定日時	2019-11-09 11:37:27
ステータス	Complete

実行ログ情報

メッセージタイプ	ログ出力日時	メッセージコード	メッセージ
Information	2019-11-09 11:37:30	1000	ステップを開始しました
Information	2019-11-09 11:37:31	4000	プロセスを開始しました
Information	2019-11-09 11:37:32	4900	プロセスが終了しました
Information	2019-11-09 11:37:32	9000	ステップが正常終了しました...

5.2 ステップステータス

ステップインスタンスの実行状態は、ステップステータスとして管理されます。ステップインスタンスは以下のとおりです。

ステップインスタンス	内容	備考
Waiting For Time	起動予定時刻の到達を待っている状態です。既に起動予定時刻に到達している場合、Agent からの抽出を待っている状態です	
Waiting For Step	先行ステップの終了を待っている状態です	
Running	実行中の状態です	
Canceling	利用者からキャンセル要求を受け付け、Agent でのキャンセル実行を待っている状態です	
Complete	正常終了した状態です	
Abort	異常終了した状態です	
Canceled	キャンセル終了した状態です	
Disabled	先行ステップの異常終了などを受け、ステップの実行が抑止された状態です	

5.3 ステップインスタンスのメニュー

ステップインスタンスの照会画面では、当該ステップインスタンスに対するメニューが表示されます。

App Bridge Kicker

タスクインスタンス照会

Change Schedule
Change Property
Pause
Force Cancel
Force Complete

Menu > Task Inst List > Task Inst > Step Inst

タスクインスタンス情報
Refresh

タスクコード	TASK001
タスク名	タスクサンプル

ステップインスタンス情報
☐ ステップインスタンスの詳細を表示する

ステップコード	STEP001
ステップ名	タスクへのデータインポート
起動予定日時	2020-04-20 17:28:59
ステータス	Waiting For Time

メニュー	内容	ステップステータス							
		WT	WS	Rg	Ci	Co	Ab	Cd	Ds
Change Schedule	起動予定日時を変更します	○	×	×	×	×	×	×	×
Change Property	ステップのプロパティを変更します	○	○	×	×	×	○	○	×
Pause	ステップをポーズします	△	△	×	×	×	×	×	×
Disable Timeout	タイムアウト通知を抑止します	▽	×	▽	×	×	×	×	×
Resume	ステップのポーズを解除します	□	□	×	×	×	×	×	×
Retry	ステップの再処理を要求します。要求後ステータスは Waiting For Time です	×	×	×	×	×	○	○	×
Cancel	Agent に実行中プロセスのキャンセルを要求します。要求後ステータスは Canceling です	×	×	○	×	×	×	×	×
Force Cancel	強制的にステータスを Cancel とします	○	×	×	○	×	×	×	×
Force Complete	強制的にステータスを Complete とします	○	×	×	×	×	○	○	×
Standard Message	標準出力、エラー標準出力を表示します	×	×	×	×	◎	◎	◎	×
Run History	実行結果の詳細を表示します。ステップを Retry した場合、過去の結果も参照できます	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇

凡例 [WT:Waiting for Time] [WS:Waiting for Step] [Rg:Running] [Ci:Canceling]
 [Co:Complete] [Ab:Abort] [Cd:Canceled] [Ds:Disable]
 [○ : 有効] [× : 無効]
 [△ : ポーズ中は無効] [□ : ポーズ中は有効]
 [▽ : タイムアウト中は有効]
 [◎ : 標準出力、標準エラー出力の何れか、または両方が出力されているとき有効]
 [◇ : 実行履歴が存在するとき有効]

6. 入力様式

6.1 環境変数の入力形式

環境変数は、キーと値を：（コロン）で分離して指定します。

KEY:VALUE

項目	内容	備考
KEY	環境変数キーです 最大文字数は 32 文字です。許可文字種は英字、数字、_（アンダースコア）であり、先頭文字は英字のみ許可されています	
VALUE	環境変数の値です 最大文字数は 1024 文字です。制御文字、サロゲートペア文字は入力できません	

値を空値とする場合、キーのみを指定します。下記例のキーは KEY、値は空値です。

KEY:

複数の環境変数を指定する場合、カンマで区切ります。キーの重複は許されません。下記例のキーは KEY1 と KEY2、値は VALUE1 と VALUE2 です。

KEY1:VALUE1,KEY2:VALUE2

値にカンマを含む場合、キーと値を[]（角括弧）で囲みます。下記例のキーは KEY1 と KEY2、値は VALUE1A, VALUE1B と VALUE2 です。

[KEY1:VALUE1A,VALUE1B],KEY2:VALUE2

[]（角括弧）で囲んだ中では、バックスラッシュ（\または¥）をエスケープ文字として扱います。[]角括弧及びバックスラッシュ（\または¥）の入力にはエスケープ文字を使用して下さい。下記例のキーは KEY1 と KEY2、値は VALUE1A, VALUE[1B]と VALUE2 です。

[KEY1:VALUE1A,VALUE¥[1B¥]],KEY2:VALUE2

6.2 追加する引数

追加する引数は、ステップコードと引数を：（コロン）で分離して指定します。

StepCD:Arguments

項目	内容	備考
StepCD	対象ステップのステップコードを指定します。#ALL を指定した場合、全ステップが対象になります。ステップコードを省略したとき#ALL が仮定されます	
Arguments	追加する引数を指定します。最大文字数は 1024 文字です。制御文字、サロゲートペア文字は入力できません。追加する引数に：（コロン）、空白が含まれる場合、全体をダブルクォーテーションで囲って下さい（※1） 追加対象のステップに引数が指定されている場合、既存引数の先頭に追加された引数+1 つの空白を挿入します	

※1：ダブルクォーテーションで囲った場合、連続する 2 つのダブルクォーテーションは 1 つのダブルクォーテーションに変換されます

複数のステップに引数を追加する場合、カンマで区切ります。ステップコードの重複は許されません。

StepCD1:Args1,StepCD2:Args2

引数にカンマを含む場合、キーと値を[]（角括弧）で囲みます。

[StepCD1:Args1A,Args1B],StepCD2:Args2

[]（角括弧）で囲んだ中では、バックスラッシュ（\または¥）をエスケープ文字として扱います。[]角括弧及びバックスラッシュ（\または¥）の入力にはエスケープ文字を使用して下さい。

[StepCD1:Args1A,¥[Args 1B¥]],StepCD2:Args2

6.3 引数の変換文字列

引数の変換文字列は、ステップコードと変換対象キーワードと変換後文字列を: (コロン) で分離して指定します。

同じステップに同じ変換対象キーワードを設定することはできません。#ALL 指定とステップコード指定に同じ変換対象キーワードがあるときはステップコード指定の変換が優先されます。変換は引数の先頭から順に実施され、変換対象キーワードの長いものから順に審査されます。変換後の値は再変換されません。

StepCD:KEY:VALUE

項目	内容	備考
StepCD	対象ステップのステップコードを指定します。#ALL を指定した場合、全ステップが対象になります。ステップコードを省略したとき#ALL が仮定されます	
KEY	変換対象のキーワードです。英大文字、小文字は区別されます。最大文字数は 128 文字です。制御文字、サロゲートペア文字は指定できません。キーワードに: (コロン)、空白が含まれる場合、全体をダブルクォーテーションで囲って下さい (※1)	
VALUE	変換後文字列です。最大文字数は 128 文字です。制御文字、サロゲートペア文字は入力できません。変換後文字列に: (コロン)、空白が含まれる場合、全体をダブルクォーテーションで囲って下さい (※1)	

※2: ダブルクォーテーションで囲った場合、連続する 2 つのダブルクォーテーションは 1 つのダブルクォーテーションに変換されます

値を空値とする場合、ステップコードとキーのみを指定します。下記例の変換後文字列は空値です。

Step1:KEY:

複数の変換文字列を指定する場合、カンマで区切ります。同じステップに同じ変換対象キーワードを重複指定することはできません。

Step1:KEY1:VALUE1,Step2:KEY2:VALUE2

値にカンマを含む場合、キーと値を[] (角括弧) で囲みます。

[Step1:KEY1:VALUE1A,VALUE1B],Step2:KEY2:VALUE2

[] (角括弧) で囲んだ中では、バックスラッシュ (\ または ¥) をエスケープ文字として扱います。[] 角括弧及びバックスラッシュ (\ または ¥) の入力にはエスケープ文字を使用して下さい。

[Step1:KEY1:VALUE1A,¥[VALUE 1B¥]],Step2:KEY2:VALUE2

6.4 追加する環境変数

追加する環境変数は、ステップコードとキーと値を：（コロン）で分離して指定します。

StepCD:KEY:VALUE

項目	内容	備考
StepCD	対象ステップのステップコードを指定します。#ALL を指定した場合、全ステップが対象になります。ステップコードを省略したとき#ALL が假定されます	
KEY	追加する環境変数キーです。最大文字数は 32 文字です。許可文字種は英字、数字、_（アンダースコア）であり、先頭文字は英字のみ許可されています 既に当該キーが存在する場合、本情報で上書きされます	
VALUE	追加する環境変数値です。最大文字数は 1024 文字です。制御文字、サロゲートペア文字は入力できません。環境変数値に：（コロン）、空白が含まれる場合、全体をダブルクォーテーションで囲って下さい（※1）	

※1：ダブルクォーテーションで囲った場合、連続する 2 つのダブルクォーテーションは 1 つのダブルクォーテーションに変換されます

値を空値とする場合、ステップコードとキーのみを指定します。下記例のキーは KEY、値は空値です。

Step1:KEY:

複数の環境変数を指定する場合、カンマで区切ります。同じステップに同じキーを重複指定することはできません。

Step1:KEY1:VALUE1,Step2:KEY2:VALUE2

値にカンマを含む場合、キーと値を[]（角括弧）で囲みます。

[Step1:KEY1:VALUE1A,VALUE1B],Step2:KEY2:VALUE2

[]（角括弧）で囲んだ中では、バックスラッシュ（\または¥）をエスケープ文字として扱います。[]角括弧及びバックスラッシュ（\または¥）の入力にはエスケープ文字を使用して下さい。

[Step1:KEY1:VALUE1A,¥[VALUE 1B¥]],Step2:KEY2:VALUE2

6.5 追加する実行ノード

追加する実行ノードは、ステップコードとノードコードを：（コロン）で分離して指定します。

StepCD:NodeCD

項目	内容	備考
StepCD	対象ステップのステップコードを指定します。#ALLを指定した場合、全ステップが対象になります。ステップコードを省略したとき#ALLが仮定されます	
NodeCD	ノードコードを指定します	

複数の実行ノードを指定する場合、カンマで区切ります。

STEP1:NODE1,#ALL:NODE2

6.6 追加する実行タグ

追加する実行タグは、ステップコードとタグを：（コロン）で分離して指定します。

StepCD:Tag

項目	内容	備考
StepCD	対象ステップのステップコードを指定します。#ALLを指定した場合、全ステップが対象になります	
Tag	実行対象とするタグを指定します。実行タグの許可文字列は後述の「実行タグの許可文字列」を参照下さい	

複数の実行タグを指定する場合、カンマで区切ります。

STEP1:TAG1Node,#ALL:Tag2

6.7 実行タグの許可文字列

実行タグに許可されている形式は以下の通りです

(1) 一般タグ：単バイト文字列

- 許可文字数：1～24 文字
- 許可文字種：英字、数字、_（アンダースコア）の何れか

(2) 一般タグ：多バイト混在文字列

- 許可文字数：1 文字～10 文字
- 許可文字種：英字、数字、_（アンダースコア）、多バイト文字（サロゲートペア文字、スペース以外）

(3) スケーリングタグ

- 許可文字数：32 文字
- 英字（A～F）、数字の何れか
- 英字大文字は英字小文字に変換されます